

《短報》

対馬海峡以北の日本海から初記録のハチジョウダカラ（腹足綱：タカラガイ科）

久志本鉄平

下関市立しものせき水族館. 〒750-0036 下関市あるかぼーと6番1号

はじめに

ハチジョウダカラ *Cypraea (Mauritia) mauritiana* Linnaeus, 1758 は腹足綱タカラガイ科に属する巻貝で三浦半島以南の熱帯インド・西太平洋に分布する（奥谷, 2000）。日本海周辺の分布については、暖流の影響の大きい九州西岸の野母崎から記録されるが（堀川, 1964; 長崎県理科教育協会編, 1968）、対馬海峡以北の日本海である対馬（松林, 1991; 久保田, 2012）・山口県（河本, 1964; Hosaka *et al.*, 1997; 堀, 2007; 久志本, 2012）・島根県（高梨ら, 2008）からは本種の記録はこれまでにない。日本海の南西部の範囲について国際水路機関による定義では五島～野母までとなるが、一般的に海洋環境や海洋生物について述べられるときは対馬海峡以北を指す場合が多く、対馬海峡以北の日本海では初めての記録となる。近年、山口県日本海沿岸では南方種のタカラガイの発見が相次いでおり（小林ら, 2006; 堀, 2007; 河野ら, 2011; 河野ら, 2015）、今後の長期的な海洋環境の変化を知るうえで記録としてとどめておく。

採集記録と考察

2016年1月29日に山口県下関市豊北町神田浜（図1）にて漂着物調査中にハチジョウダカラ幼貝（図2）を確認した。

本種の幼貝と混同しやすい種としてヤクシマダカラ *Cypraea (Mauritia) arabica asiatica* (Schilder & Schilder, 1939) 幼貝があり、これまでに山口県日本海側では萩市倉江・豊北町神田・豊北町角島・下関市吉母・下関市蓋井島で確認されている（Hosaka *et al.*, 1997; 久志本, 2012）。本調査実施年にも下関市内で延べ3回の調査で1個のヤクシマダカラを採取している。採取したハチジョウダカラ幼貝は殻頂部が低く上部が丸くなる、連続した大きな三角模様といった本種の幼貝の特徴が認められたことからハチジョウダカラと同定した。殻高 43.09 mm 殻径 22.63 mm であった。今回採取した標本は幼貝であるため、幼生期に対馬暖流に乗り漂着し冬季の水温低下で死滅し、打ち上げられたと推測される。これまでに、本種は幼貝を含み対馬海峡以北の日本海で確認されていないことから、



図1. 採集地点

幼生を供給する成員の分布域が北上したため今回の記録につながった可能性が考えられる。今後も引き続き調査を継続することで長期的な環境変動の把握に役立つと考えられる。

謝辞

同定を行うにあたり貴重なご助言をいただいた、タカラガイ・ブック（東京書籍出版）の著者の一人で

あり軟体動物の分類学の研究者である淤見慶宏氏，観音崎自然博物館の学芸員である山田和彦氏に心より感謝申し上げます。また，萩博物館の堀成夫博士には同定を行うにあたり貴重なご助言をいただくとともにタカラガイについての文献紹介や貴重なご指摘及びご教授をいただき厚くお礼申し上げます。

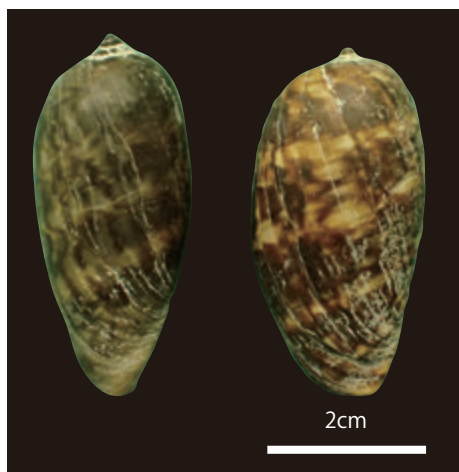


図 2-1. ハチジョウダカラ幼貝（背側）
* 右側ハチジョウダカラ幼貝 左側は比較用の
ヤクシマダカラ幼貝

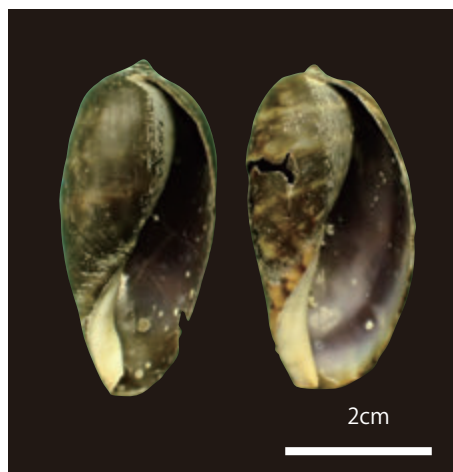


図 2-2. ハチジョウダカラ幼貝（腹側）
* 右側ハチジョウダカラ幼貝 左側は比較用の
ヤクシマダカラ幼貝

引用文献

- 堀 成夫 (2007) 山口県北部地方からの新記録種の報告. *ちりぼたん*, **37** (4): 159-170.
- 堀川安市 (1964) 「長崎県産貝類目録」 92pp., 長崎生物研究会, 長崎.
- Hosaka, K., Irie, T. and Sugimura, T. (1997) The family Cypracidae (Caenogastropoda) of Yamaguchi Prefecture, western Japan. *The Yuruyagai*, **5** (1/2): 127-183.
- 河本卓介 (1964) 下関吉見地区の貝類. *山口県の自然*, **12**: 22-31.
- 河野光久・堀 成夫・土井啓行 (2011) 2005～2009年の山口県日本海域における海洋生物に関する特記的現象. *山口県水産研究センター研究報告*, **9**: 1-27.
- 河野光久・土井啓行・堀 成夫・園山貴之・荻本啓介・國森拓也 (2015) 2010～2013年の山口県日本海域における海洋生物に関する特記的現象. *山口県水産研究センター研究報告*, **12**: 1-22.
- 小林知吉・堀 成夫・土井啓行・河野光久 (2006) 山口県の日本海沿岸域における海洋生物に関する特記的現象. *山口県水産研究センター研究報告*, **2**: 19-56.
- 久保田信 (2012) 長崎県対馬に漂着したタカラガイ類とイモガイ類 (巻貝綱). *長崎県生物学会誌*, **70**: 6-8.
- 久志本鉄平 (2012) 下関市吉母および蓋井島のタカラガイの記録. *豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書*, (4): 55-59.
- 松林金造 (1991) 長崎県のタカラガイ. *長崎県生物学会誌*, **38・39**: 39-42.
- 長崎県理科教育協会 編 (1968) 「貝類, 長崎県の動物」 323pp., 長崎県理科教育協会, 長崎.
- 奥谷喬司 (2000) 「日本近海産貝類図鑑」 1173pp., 東海大学出版会, 東京.
- 高梨淳貴・立脇晋平・田中 彩・矢田 歩 (2008) 島根半島のタカラガイの調査研究. *スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会レジュメ集*, 124pp..